



## 新・みやぎ・シー・メール第49号 (Miyagi Sea Mail)

発行：令和4年12月5日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

### カキの付着生物について

#### 企画・普及指導チーム

宮城県では、古くからカキの養殖が行われており、令和3年の生産量は広島県に次ぐ全国第2位の水揚げを誇っています。カキは冬から春にかけて「グリコーゲン」という栄養素を蓄え美味しくなりますので、これから水揚げされる宮城県の美味しいカキを是非ご賞味ください。



当センターでは養殖カキの安定生産のため様々な調査研究に取り組んでいます。今年はカキの成長を阻害する付着生物についての問い合わせが多かったので、その生物について紹介させていただきます。

#### 1 シロウスボヤについて

令和4年5月に、カキ養殖を行っている生産者の方から、カキに付着する生物について問い合わせがあり、現地を確認を行ったところ、カキを覆う薄黄色い付着物（写真1）が確認されました。地元では「テンプラコ」と呼ばれており、昔からカキへの付着は確認されていましたが、今年は付着量が多いとのことでした。

付着物の検鏡を行ったところ、表面には開口部（写真2）があり、内部には黄色い個虫のようなもの（写真3）が確認されました。所内及び付着生物の専門家である北里大学の広瀬博士にも確認頂いたところ、群党性ホヤの仲間「シロウスボヤ（もしくは近縁種）」と判明しました。



写真1 カキに付着するシロウスボヤ



写真2 シロウスボヤの表面拡大（左）

写真3 シロウスボヤの内部（右）

#### 2 コケムシについて

令和4年10月にもカキに付着する付着生物についての問い合わせがあり、現地を確認を行ったところ、2種類のコケムシであることが判明しました。コケムシは、一見、海藻のように見えますが、小さな個虫が集まった群体を形成する固着動物です。



写真4 フサコケムシ（左）

写真5 ツブナリコケムシ（右）

#### 3 付着生物の防除について

シロウスボヤやコケムシは、植物プランクトンを餌としており、カキと餌が競合することで、カキの成長を阻害することが知られています。これまでの試験結果から、熱湯に漬ける温湯処理や表面を乾燥させる干出処理により、付着生物の除去が行えることは確認できていますが、設備や労力等の問題から、全ての養殖カキを処理することは難しい状況にあります。

今後は、付着生物の出現時期や養殖場所、養殖施設等を考慮することで、成長を阻害するような付着生物はカキに付着させない養殖方法を生産者の方々と検討していきたいと考えています。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>